

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101561		
法人名	社団法人 慈恵会		
事業所名	グループホームあおいもり		
所在地	青森県青森市大字大谷字山ノ内16-3		
自己評価作成日	令和4年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・精神科病院に併設した施設であるため、状態に変化が出た場合は、速やかに主治医の診察を受けることができる。また、隣接する病院との医療連携体制を整えているため、すぐに相談できるようになっている。</p> <p>・夏祭りや敬老会、クリスマス会等、家族が参加できる行事もあり、ホームでの生活を見ていただく良い機会となっている。また、毎月、食事会や誕生会も行っている。</p> <p>・職員のスキルアップのため、内部・外部研修への参加や勉強会も多く開催している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの周囲は自然が豊かで、散歩の途中で裏山の山桜を見ることができたり、四季を身近に感じられる環境にある。</p> <p>利用者一人ひとりの個別情報がタブレット入力等によりデータ化され、履歴、傾向等が確認できることで、利用者の変化に気づき、対応することができる体制を整えている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時に、ミッション・ビジョンを目視で確認している。また、個別での買い物や外出、他事業所や地域の小学校、児童館との交流を図っているが、現在は新型コロナウイルス感染予防のため、外出・交流等を中止している。	ホームにはミッション、ビジョン、行動指針があり、独自の理念を作成して各ユニット等に掲示している他、職員がいつでも確認できるよう、それらが書かれた名刺大の大きさの物を配布している。また、行動指針に基づいた模範となるような職員を毎月表彰する等、理念を全職員に周知して、共有化するため、工夫した取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々や小学校、児童館と地域交流を図っている。また、ホームでの行事に婦人会や保育園に余興をお願いしているが、現在は新型コロナウイルス感染予防のため、行事等は中止している。	コロナ禍前は、地域の小学校や児童館と交流したり、地域の行事や他グループホームの納涼祭り等に参加している他、ホームの行事に婦人会や保育園の余興をお願いして、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を通じて、地域へ認知症に関する相談を受け付けている旨を知らせている。また、外部から受け入れる際は、プライバシーに配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ユニットの行事や、ホームの取り組みを報告している。また、身体拘束についての話し合いや、第三者の意見を取り入れ、サービスの向上に努めている。現在は新型コロナウイルス感染予防のため、書面にて報告している。	コロナ禍のため、運営推進会議は2ヶ月に1回、書面で開催している。会議では、ホームの行事や取り組み、身体拘束等を議題としており、会議資料と共に意見を書く用紙も同封して、今後の取り組みにつなげていけるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	活動内容や介護事故の報告の他、集団指導や感染症対策等の指導を受けている。新型コロナウイルス感染症の予防対策として、介護認定更新申請についても、相談して対応している。	運営推進会議で意見をいただいている他、感染症予防対策やコロナ禍での面会の緩和等について、その時々に応じた指導やアドバイスを受けており、利用者の利便性の向上等、生活の質を高めるための課題解決に向け、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故・身体拘束防止委員会を設置し、身体拘束についての研修を年度内に2回行い、職員の理解を図っている。	ホームでは事故・身体拘束防止委員会を設置して、毎月開催している。また、年2回、身体拘束の研修を行っており、運営者及び全職員は、身体拘束の内容やその弊害について理解を深めている他、運営推進会議でも身体拘束を議題として取り上げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通じ、虐待について全職員の理解を図り、目に見える虐待だけではなく、心理的虐待についても話し合っている。また、少しの事でも気づけるよう、正しい知識を得て虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業については、外部研修に参加し、全職員が学べる機会を設けている。また、円滑に入居生活を送れるように、家族との連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、改定時には、契約書や重要事項の説明を行い、家族の不安や疑問に対応している。対応困難による退居や入院が長期に及ぶ際は、次の受け入れ先を家族と相談の上、退居となる旨を説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、苦情委員会を設置し、苦情になり得る小さな事まで話し合いを行い、防止に努めている。	職員は日々のコミュニケーションの中で、利用者が意見や苦情を出しやすいように働きかけており、意見等を上手に表すことができない利用者に対しても、日々の関りを通じて本人の思いを察するように取り組んでいる。また、玄関に意見箱を置くと共に、月1回、家族が支払いのために訪問した際等に、利用者の様子を伝えて、意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時に、職員間で意見、情報を交換し、反映させている。	毎朝の申し送りや各ユニットでの話し合い、随時の話し合い、連絡ノート、面談等で職員の意見を聞く機会を設けたり、意見交換等ができる環境作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミッション・ビジョン・行動指針を掲げ、実績に応じた表彰制度を行っている。また、個人面談を行い、職員の意見を聞く場を設けている他、日々の業務で、すぐに実践できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ステップアップのための研修や、国家資格取得に向けての助言や支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ包括内のグループホームと互いの行事に参加して交流を図り、外部研修に参加することで、他施設の職員との情報交換を行っている。現在は新型コロナウイルス感染予防のため、電話等で情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時にゆっくりと話ができるように時間を設けており、ホーム内の見学や説明も行っている。本人との面談を実施し、入居に対する不安を和らげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込の際等、家族の相談に乗っている。入居日に合わせてケアプランを作成し、家族の同意を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、本人や家族と面談を行い、希望やニーズを取り入れている。また、ケアプランを作成した際は、家族へサービス内容を説明し、要望を聞いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	皆と共同生活するという念頭において、一人ひとりが生活の中で役割を持てるように心がけている。また、利用者同士が交流を持てるように関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で、利用者の状態を家族に報告している。ホームでの行事の際は声がけをして、一緒に参加してもらっていたが、新型コロナウイルス感染予防のため、現在、行事等は中止している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話から馴染みの人の名前を把握し、話題作りをしている。外出時、馴染みの場所を通るようにして、昔を思い出してもらっていたが、現在は新型コロナウイルス感染予防のため、外出を控えている。	入居時のアセスメントや日々のコミュニケーションの中から、利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所等を把握するよう努めている。また、希望があれば、電話や手紙での連絡を取り持つ等、交流を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の体調に配慮し、孤立しないようリビングでの団欒の場を設けている。上手くコミュニケーションが取れない利用者の場合は、職員が間に入り、スムーズに会話ができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関連施設や他事業所のケアマネジャーと連携を図り、情報交換をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	誕生会や買い物等は、本人の意向や希望を取り入れている。希望がない場合は、家族から情報を得たり、以前喜んだ物や事柄を取り入れるようにしている。	職員は日々のコミュニケーションの中から、利用者の思いや希望、意向を把握するように努め、意向等が十分に把握できない場合も、日々の会話や日常の様子、家族から情報を得る等して、全職員が利用者の視点に立って意向等を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、家族や担当のケアマネジャー等から情報を得ている。また、個々の生活習慣を理解し、職員の価値観を押し付けないように気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状態に合わせ、無理のないよう、できる事はしてもらうようにしている。また、担当職員を配置し、利用者の変化に気づけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見・要望に耳を傾け、その人らしく生き生きとした生活が送れるよう、ケアプランを作成している。また、担当職員が主体となり、ユニットでカンファレンスを行っている。	介護計画作成時には、利用者がその人らしく暮らし続けることができるよう、利用者との日々の関わりの中から、本人の意見や希望を聞くように努めている。また、必要に応じて、家族と面会時に話をしたり、関係者等からも意見をいただき、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのファイルを作り、利用者のケアプランを綴っている。記録の際に、ケアプランを基に記録できるようにしている。また、タブレット端末を使用し、日付や時間、状態の変化や経過がすぐにわかるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時は職員が付き添っている。家族の要望があれば外泊の対応もできるが、新型コロナウイルス感染予防のため、現在は外泊を控えてもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の駐在所や小学校、児童館、地域包括支援センター、町会長等と交流を図り、人的ネットワークの構築に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院と連携を図っており、定期、緊急時の受診介助をしている。その他の病院への受診は家族へお願いしているが、送迎が困難な場合は対応している。	入居時のアセスメントで、これまでの受療状況を把握しており、協力病院への定期受診の支援の他、利用者や家族が希望する医療機関へは家族の協力を得て受診できるように支援している。また、定期受診の結果は変化がなければ月1回報告し、利用者の状態に変化があった時や必要に応じて、その都度電話で連絡をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院と医療連携体制を取っているため、いつでも相談でき、助言や指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケースワーカーやケアマネジャー等と、頻繁に情報交換や相談等の連絡を取っている。また、病院と家族の話し合いから、管理者、計画作成担当者で検討会を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでは終末期の対応を行っていないことを入居時に説明し、家族の理解、同意を得ている。また、早い段階から他施設への申し込みをお願いしている。重症化した場合は、主治医や家族と話し合いを行い、意見統一を行っている。	急変時や重度化した場合の対応について、事前に家族と話し合っ確認し、早い段階で他施設への申し込みをお願いしている。また、協力病院との医療連携体制を整備しており、いつでも相談、助言を受けることができ、緊急時にも協力が得られる体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療連携体制を取っているため、24時間協力病院へ相談できるようにしている。また、緊急時のマニュアルを作成し、急変時に備えている他、内部、外部の研修にて、応急手当や初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、日中や夜間を想定した避難訓練を、利用者を交えて行っている。緊急連絡網を作成し、緊急時に対応できるようにしている。	年3回、日中、夜間を想定した避難訓練を行っており、併設する病院と一緒に実施する他、消防署や町会長からも協力が得られるように働きかけている。また、ホームは高台にあるため、地域の町会からは、水害の際にはホームを避難場所として利用したいとの申し出もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉遣いや、プライバシーに十分に配慮して関わることを意識し、対応している。	職員は利用者とのコミュニケーションを大切にしており、利用者の言動を否定したり、拒否することのない対応に努めている。個人情報がかかれた書類は事務室内のキャビネットに保管し、重要書類は1ヶ所にまとめる等して、守秘義務や個人情報の取り扱いに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から会話を多くし、本人の意思確認に努めている。家族とも、面会毎に情報交換をしている。また、なかなか意思表示ができない利用者には、表情や態度から読み取るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活パターンを観察して、援助をしている。リハビリ体操等への参加は、その日の体調に合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに気をつけ、本人が選べるように配慮している。援助が必要な場合は一緒に行っている。散髪は床屋に依頼し、ホームに来ていただいております、本人が望む店へは、家族の方に付き添いをお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けは職員と一緒にいき、昼食は職員も一緒に食べている。食事会や誕生日会は利用者の希望を聞いて提供している。食べられない物はメニューを変更して提供している。	献立は給食センターの栄養士が作成し、苦手なもの等に配慮して代替食を提供したり、利用者の状態に合わせて食形態にも配慮している。また、夏祭りや敬老会等の行事食や、その他にも食事会や誕生会には利用者の希望を聞いて提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のカロリーは1日約1600kcal、水分は1日1080cc以上摂取するように、スケールを使いチェックしている。また、利用者の状態に合わせ、刻み食やお粥、トロミで提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合わせ、一部介助・全介助で口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを観察し、事前に誘導して失禁しないように対応している。失禁時は速やかに対応し、他の利用者には気づかれないようにしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、観察して事前に誘導する等、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に合わせた運動、水分補給に努めている。また、なるべく下剤に頼り過ぎないように、乳製品や果物等を食事やおやつ時に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	本人の意向を聞き、その方に合った見守りや介助をしている。また、入浴の際、リラックスしてもらえるよう、入浴剤を活用している。	入居時のアセスメントや日々のケアの中で、利用者の入浴習慣や好みを把握するように努めており、週2～3回は入浴できるように支援している。入浴を拒否する利用者には、声かけや対応等の工夫を行っており、無理強いすることなく、清潔を保てるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて、夕食後から就寝まで寛げる時間を作っている。また、夜間、不眠を訴える方には、温かい飲み物を提供し、落ち着くまで寄り添うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の薬情をファイルし、全職員が閲覧できるようにしている。また、変更時は連絡ノートを活用し、全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが活躍できる場を大切に、洗濯を畳む等、本人の負担にならない程度で行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて、集団での外出を企画し、実施している。希望や必要時に個別に外出ができるように支援しているが、新型コロナウイルス感染予防のため、外出は控えている。	コロナ禍のため、外出の機会は減ったものの、ホームの周囲を散歩したり、今年は運動公園や桜並木を見にドライブに出かける等、利用者の気分転換につながるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望に応じて、金銭管理契約をしている。自己管理の場合は、家族・本人と話し合いを行い、トラブルにならない程度の金額としている。また、個別での買い物の支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置し、好きな時に電話ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせた装飾作りをしている。また、利用者が不快にならないよう、職員の声のトーンに気をつけている。	リビングには食卓テーブルやソファ、テレビが置かれ、ゆったりと自由に寛げるようになっている。廊下やリビング等、ホーム内には職員と利用者が一緒に作成した、季節に合った飾りつけを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、利用者同士が交流できるように団欒のスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居前から使っていた馴染みの物を持ってきてもらうように働きかけている。また、入居してからも誕生会の写真を飾る等、心地良く過ごせるように配慮している。	家族には入居前から使用していた物、愛用していた物等を持って来てもらうように説明している。居室には椅子やタンス、花、家族写真、仏壇、位牌等が持ち込まれ、職員は利用者が居心地良く過ごせる居室となるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居当初は、居室・トイレ等がわからないため、本人がわかるように貼り紙をしている。また、利用者の状態に応じて見守りや介助を行い、補助具として手すりやベッド柵を設置している。		